

The Shimonoseki City University Public Relations

# 下関市立大学広報



共同自主研究発表会の様子



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

## 下関市立大学

Shimonoseki City University

2017年3月1日 第81号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

## 共同自主研究

### 下関の地方創生と地域金融機関の関わり

経済学科3年 佐々木 啓行  
(岡山県立玉島高等学校出身)

私たちは地方創生と地域金融機関の役割というテーマで共同自主研究を行いました。

まず、地方創生について考えるにあたり、下関市の観光政策を事例として取り上げました。フグが全国的に有名であるのに、なぜ観光資源として十分に活かされていないのか、また、観光業の発展のために必要なことは何かについて、下関市役所や地元金融機関、山口県漁業協同組合にヒアリング調査を行いました。その結果、それぞれの関係者がうまく連携できないことが最大の要因であること、また、そのために地元の地域金融機関の役割も大きいことがわかりました。具体策として、観光事業の能力を高めるための基盤整備が必要であるため、地方創生ファンドを地域金融機関が中心となって創設し、それを優秀な企業の誘致に投資すべきだということを提案しました。

今回の共同自主研究を通して、調査・研究をするにあたって金融機関や観光協会など普段お会いすることの少ない社会人の方とお話しさせていただき、私にとって大変貴重な経験になりました。



### 課題解決型学習(PBL)の魅力

公共マネジメント学科3年 佐藤 愛美  
(宮城県立日南高等学校出身)

私はPBLに参加し、およそ半年の間日本とシンガポールで課題に取り組みました。お世話になったのは、日本のみならず海外でもラーメンで笑顔を広めている一風堂様です。いただいた課題は、「シンガポールの人々の食の現状把握」と「さらに成功するための提案」をすることでした。実際に本格的な調査を行ったのはシンガポールでしたが、日本にいる間も準備としてシンガポールという国や国民性、諸文化、経済状況などを調べたり、提案内容を考えたりしました。渡航後は企業の方や現地の方とのやりとりを幾度も繰り返し、自分たちなりの提案を練っていきました。最終的にはシンガポール、日本それぞれで報告会を行い、フィードバックをいただきました。

PBLは期間が長く、多くの気づき・収穫があります。期間中たくさんのことを考え行動しましたが、同時に「伝える」機会も多くありました。知りたいことを的確に聞いたり、こちらの考えをわかりやすく説明したりといったことです。それらを伝えたことに対して、内容はもちろん伝え方までフィードバックをいただき、社会で働くことの学びの多さを知りました。



## キャリア支援

### ビジネス・プロフェッショナルを受講して

経済学科3年 田島 潤  
(敬愛高等学校出身)

ビジネス・プロフェッショナルでは、就職活動における基礎や応用などを学びました。

基礎として、企業分析の方法や提出書類作成のポイントなど、今後の就職活動に役立つスキルを学ぶことができました。例えば、企業分析であれば学内合同業界研究会に来られる企業をあらかじめ研究した上で質問を投げかけ、企業の本質を聞き出すように努めました。私自身、イオンリテール株式会社様の企業分析を行い、その際に出た疑問などを研究会当日に企業に投げかけることができました。

応用として、各自が企業分析したものを授業内で発表し、次に志望動機を作成します。志望動機も授業内で発表しますが、発表は森山先生と他の学生が面接官となり、模擬面接のような形で行われます。なぜこの企業を志望したのか、なぜこの企業でなければならなかったのか、などを深く考え、また自分自身がこの企業で何がしたいのか、どのような貢献ができるのかを考え分析しました。

人前での発表や模擬面接などは、他のどの授業をとってみても数多くこなせるものではないため、自分自身の糧となり、とても貴重な経験となりました。



### 学内合同業界研究会に参加して

国際商学科3年 大津 千佳  
(3年次編入学)

11月22日から3日間、学内で行われた合同業界研究会に参加しました。気になっていた企業について、また知らない業界や企業について学ぶことができ、就職活動へのとても良いきっかけとなりました。

この合同業界研究会に参加して最も良かったと思う点は、自分の視野が大きく広がり選択肢が増えたことです。3日間を通して約20社の企業の方からお話を伺い、今まで全く注目していなかった仕事でしたが自分に向いているのではないかと業界や同じ業界であっても企業によって異なる点があるということを見出し、より明確に自分の将来の仕事を考える機会となりました。

また、就職活動は人との繋がりがとても重要だと思います。この時期から人事部の方々とお話をさせていただき、気になる点を質問したり、インターンシップや選考についての情報を頂いたり、大変貴重な時間となりました。

知らないということは選択できないということだと実感した3日間だったので、様々な情報を入手し、自分にとって最高の選択ができるよう、将来に向けて行動していきたいです。



### 2016年度就活直前セミナーに参加して

国際商学科3年 武南 里奈  
(福岡県立筑前高等学校出身)

私は、2月4日(土)に行われた就活直前セミナーに参加し、「事前準備の大切さ」を学びました。

セミナーでは集団模擬面接が行われ、OB・OGの方に面接官としてご指導いただきました。面接は5人1チームで行われ、張り詰めた空気の中、真剣に取り組むことができました。また、他の人が面接をしている様子を面接官の目線で見ることができ、どのような人と働きたいか、良い話し方や表情というのはどんな感じかを学ぶことができました。

面接終了後に面接官から1人ずつ話の内容や目線、表情や雰囲気などの評価をフィードバックしていただき、自分のスキルがまだまだであることを痛感させられました。

セミナーに参加して、今のままではどこに行っても勝負ができないこと、練習や準備を怠ると本番では何の力も発揮することができないことを学びました。これから本格的な就職活動を控えている私たちにとってかけがえのない有意義な時間となり、採用試験に対する意識を高めることができました。



### 市大キャリアスタディに参加して

公共マネジメント学科3年 武田 浩一  
(愛媛県立今治北高等学校出身)

私は、実際に社会に出て働く人たちとお話する機会を得たいと思い、2月4日(土)に行われた市大キャリアスタディに参加しました。実際に参加してみて、幅広い年代の社会人の方々の意見や考えに触れることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

先輩方には、就職活動への不安や悩みに対して答えていただいただけではなく、今どのような仕事をしているのかや、仕事上で発生した悩みや問題についての質問にも答えていただき、今まで考えてもみなかった業界・職種についても興味が湧きました。イベントの中でも特に心に残ったことは、先輩方が生き生きとご自分の職場・仕事のお話をされていた点です。その姿からは、今の仕事にやりがいや楽しさを感じていらっしゃる事が伝わってきて、自分もそのようになりたいという憧れを感じました。

まだまだ自分の実力不足で、焦りや不安を感じることも多々ありますが、このようなイベントに積極的に参加して、そこで学べることを自分のものにして自信をもって就職活動に取り組めるようになりたいと思います。





## 国際交流

## カナダでの語学留学を終えて

国際商学科3年 松谷 葵  
(長崎県立壱岐高等学校出身)

私は4月から約8か月間、カナダのアルゴマ大学へ留学をしました。カナダへの派遣留学第1期生ということもあり、不安と期待の入り交った中での出発でした。私が通ったESLでは、毎朝8時半から16時までの授業そして課題と、英語を学ぶにはとても充実した日々でしたが、日本人も多く、自然と日本語で話してしまう様な状況で、私は何をしに来たのだろうと悩んだこともありました。しかしこのような環境下で、後悔しない留学にしようという意識を持ち続けることが、自分自身の成長に繋げることができました。また、この8か月間は語学力の向上だけでなく、異文化に触れることで自分の視野を広げるとも良い機会にもなりました。他国の文化と日本の文化、それぞれを知ることで他文化に対する寛容性を高めることができると共に、日本文化の良さを再確認できたと思っています。そして何よりこの留学を通して出会った人たち、特にホストファミリーと過ごした時間はかけがえのないものになりました。語学以外にも大切なことを多く学ぶことができ、とても充実した留学だったと感じています。



## 木浦大学校での1年間

公共マネジメント学科3年 金子 あずみ  
(山口県立下松高等学校出身)

私は正直、大学に入学するまでは自分が留学するなんて思っていませんでした。しかし大学生になり授業で朝鮮語を勉強し始めて、せっかく勉強しているのだからもっと朝鮮語が話せるようになりたいと思い、留学を決意しました。実際に木浦大学校(韓国)に留学し始めた頃は、言葉のやりとりがうまくいかず、慣れない環境で苦勞することもたくさんありました。毎日授業を受け、友達と会話することで、朝鮮語も少しずつ上達し、徐々に生活にも慣れていきました。

授業なども簡単なものではなく、課題も多くあり大変でしたが、友達の手助けもあり、なんとか乗り越えることができました。また木浦の市街地はもちろん、光州や全州などにも連れて行ってくれ、普段の旅行では行くことがないところも訪れることができました。

この留学でたくさんの素晴らしい人に出会い、日本ではできないこともたくさん経験することができました。感謝の気持ちを忘れず、これからの生活に活かしていきたいと思っています。



## 日本語スピーチコンテストで優勝しました！

国際商学科1年 孫 聞博宇  
(中国貴州省出身)

10月27日(木)、私は、15名の出場者があった第4回日本語スピーチコンテストで優勝しました。

今回の私のスピーチのテーマは「日本に来て気付いたこと」でした。日本の時間厳守、本屋でのブックカバーのサービス、治安の良さ等について話しました。これらのことは日本人にとって当たり前かもしれませんが、日本の生活に慣れてきた私にとっても、沢山のことが月日が経つ中で普通になってきています。それでも、異国の地で日本人の細やかな思いやりに触れる度に、やはり感動します。そして、この感動を素直な言葉で皆さんに伝えました。他のスピーチコンテストの参加者は日本の生活や異文化体験など、それぞれ感動的な話であり、発音の美しさも表現力も見事でした。

時計の針を戻してみると、2年前の来日当初の不安や悩みなどが解決したのは、他でもなく、自分の目で未知の世界を確かめたからでしょう。それによって視野が広がり成長もしました。実は、私たちの身の回りは新しいものや人の心を動かすことで溢れています。もうちょっとそこに目を留めたら意外な感動が得られると思います。



## 第8回中国語スピーチコンテストを開催して

国際商学科2年 王 振  
(中国山東省出身)

12月1日(木)、下関市立大学第8回中国語スピーチコンテストを開催し、多くの方にご参加いただき、日ごろの学習成果を披露しました。今年も日本人のみならず、韓国からの留学生も参加されました。中国語はますます、日中韓の交流の架け橋になっていると感じました。また、今年はベトナムからの留学生にも参加していただいたので、中国語の魅力がさらに広がっていると思います。今回入賞された方も、残念ながら入賞できなかった方も、みんな中国語のレベルは高かったと思います。

私たち中国語しゃべっチャイナのメンバーは、今回のスピーチコンテストに協力したことを通し、さらに中国語の魅力をも日本にいる皆さんに伝えたいという気持ちが高まりました。このような行事を通して、相互に各国の文化に対する理解を深めたいと考えています。また、来年度の中国語スピーチコンテストはさらにレベルの高い大会になることを期待しています。



## 国際交流

### 第12回コリアンスピーチコンテストの司会を務めて

特別聴講学生 蔡 洪官  
(韓国・木浦大学校出身)

私は、色々な人々との出会いを求めて木浦大学校(韓国)からやってきた交換留学生です。12月14日(水)に行われたコリアンスピーチコンテストでは司会として運営に携わりました。理由は韓国語を学んでいる日本人に興味があったからです。

コリアンスピーチコンテストには高校生から大学生まで、韓国に研修や留学経験のある人も参加していました。全ての発表がどれほどの時間と努力を要したかがわかる程素晴らしかったです。その中で一番記憶に残る発表は、積極性が必要だというテーマでした。私はその発表を聞きながら何回もうなずきました。日本人の学生は実力があるにもかかわらず内気な人が多いと感じました。自信をもって挑戦したら結果を得られますが、最初から何もしないと何も得るものはありません。現代は21世紀です。あちこちに楽しいことも多いし出会える人々も多いです。韓国語の学習もそのきっかけの一つです。とりあえず挑戦してください。韓国語を勉強して私たち韓国人と出会い、交流を深めていきましょう。



### 留学生送別会を終えて

国際交流会ともだち部長 公共マネジメント学科2年 上船 希  
(鹿児島県立鹿屋高等学校出身)

1月20日(金)、私たち国際交流会ともだちが主催する留学生送別会を行いました。今年度下関市立大学を離れる留学生の方々のために、最後の思い出を作っていたらこうとささやかながら立食形式で行いました。

当日は留学生だけでなく、多くの来賓の方や教職員のみなさまにお越しいただきました。短い時間ではありましたが、留学生あいさつややさしいダンスサークルによる演舞、また歓談をはさみながらそれぞれ交流を楽しみました。今回の留学生送別会は私たち2年生が主体となって行う初めてのイベントでした。そのため多くの不手際があり、準備から当日に至るまで国際交流センターや学生支援班の方々に多くの助けをいただきました。

今回感じた点や反省点を生かし、来年度行われる留学生歓迎会は今回よりもさらに充実したものにし、留学生を迎え入れたいと思います。



### 食・見・交・群 縁起の良い餃子

経済学科1年 荊 佳麗  
(中国山東省出身)

1月7日(土)に、「食・見・交・群」と題し、第9回餃子パーティーが開催されました。今回は中国特有の文化を、日本をはじめ各国の方にも紹介しました。中国の旧正月の雰囲気を味わってもらうため、「福」などの春節かざりの赤い紙を壁に貼り、ドアをイルミネーションで彩りました。最初に小麦粉から作る皮や海老、にら、卵を用いた具の作り方を指導しました。その後、みんなで一緒に麺棒を使って餃子の皮を作ったり、自分の好きな形に包んだりして、話しながらお互いに包んだ餃子の形を評価して、とても楽しいひと時でした。そして、茹でたり、焼いたりして食べました。美味しくて、お腹がパンパンになるまで食べた人もいました。

最後に、中国の留学生が中国の旧正月に関することや書道や歌を披露し、違う面で中国文化に触れてもらいました。

参加者は大学生だけでなく、お子さんや社会人もいました。日本の子供に中国文化を知ってもらうのはとても有意義なことだと思います。来年の餃子パーティーも楽しみにしています。



### 第3回「日本にいながら世界を知ろう!!」 ～アメリカ～の司会を務めて

国際商学科3年 鈴木 隼人  
(北海道札幌稲雲高等学校出身)

1月18日(水)に、今回はアメリカのミズーリ州出身のヴァインセント・サンダースさんがアメリカの文化や、ヴァインセントさんの考えるトランプ政権の日本への影響などについて、日本の学生や一般の方々へプレゼンテーションをしてくださいました。日本でALTとして子供達に英語を教えているヴァインセントさんのプレゼンテーションはとても楽しく、わかりやすいものでした。印象に残っているアメリカの文化としては、18時にパーティーを始めると言ったら、基本的には20時や21時にならないと人は集まらない、趣味の合う人を見つけることが友達を作る一番の方法であるなど、とても興味深いものでした。トランプ政権の日本に対する影響としてはTPPや在日アメリカ軍の話題が上がりましたが、こういった話をしている時はヴァインセントさんも参加した皆さんもとても真剣な雰囲気になっていました。最後には、様々な質問があがりとても盛り上がりました。今回のプレゼンテーションはアメリカのことを直接聞ける貴重な体験になりました。



## 地域交流

市民大学テーマ講座「地方創生時代の  
海峡のまちづくり」教授 難波 利光  
(地域共創センター長)

地方創生の取り組みとして、地域の特色を活かしたまちづくりが求められています。そこで、11月26日(土)開催の市民大学テーマ講座では、『地方創生時代の海峡のまちづくり』と題して函館、瀬戸内、下関の都市の特徴の一つである「海峡」に着目し、全国各地の海峡地域の方々をお招きして、海峡のまちづくりについて議論を行いました。

海峡のまちのまちづくりは、歴史的な背景やまちの中心となる漁業を中心とした産業が基盤となりながら形成されてきています。また、観光地としても人気があります。函館では、朝市や百万ドルの夜景が有名です。瀬戸内では、近年、瀬戸内国際芸術祭が開催され、観光客が大幅に増加しています。これらの特徴は、地域が抱えている人口減の問題を解消するために一役かっています。それは、移住定住の促進や交流人口の増加が見られていることから都市をアピールすることができていると考えられます。

下関においても、同様の社会資源を有しているわけですから、魅力ある都市として今後もシティプロモーションを行い全国にアピールすることは可能であると思われます。



## 鯨資料室シンポジウムが開催されました

1月28日(土)に、下関市立大学本館I-206教室において、第9回鯨資料室シンポジウム「中部家資料:日新丸積量図を通じてみた南氷洋捕鯨と、捕鯨母船の過去・現在・未来を辿る」が開催されました。

前半の第1部では、下関海洋科学アカデミー鯨類研究室室長の石川創氏と、下関市立大学附属地域共創センター委嘱研究員の岸本充弘氏からのご報告がありました。石川報告では、調査捕鯨に加わられたご経験をふまえながら、母船式捕鯨の過去から現代にいたる流れを整理され、将来の母船・捕鯨についての展望が語られました。岸本報告では、本学鯨資料室所有の中部家資料に含まれる日新丸積量図等の資料をもとに、黎明期の南氷洋捕鯨の様子が語られました。

続く第2部では、上記のお2人に共同船舶株式会社代表取締役社長の森英司氏を加え、パネルディスカッションが行われました。現在の日新丸の状況を通して現代の捕鯨が抱える問題が明らかになり、フロアからの質問を交えながら、今後の商業捕鯨の復活にむけた、鯨食文化の再興と新母船建造の重要性について議論されました。

当日は60名ほどの方にご参加いただき、大変な盛会でした。今後も情報発信の拠点として、鯨資料室の機能充実に努めていきたいと思ひます。



## 下関5大学連携「赤間関」公開講座開講

12月3日(土)下関市立大学において、赤間関(あかまがせき)公開講座が開講されました。これは、市内5大学の連携事業の一つとして共同開催しているもので、今年度は本学が当番校として、「下関の古代造幣局」と題し、本学の経済学部櫻木晋一教授が講師を務めました。櫻木教授は、大英博物館が所蔵する日本貨幣の図録出版に協力する等、日本の貨幣史を研究する第一人者です。講座では、実験的に作製した銭貨の枝銭などの実物資料が提示され、講義の内容も写真を多く使用しながら分かり易い解説があり、約40名の受講生は熱心に聞き入っていました。

下関市では、かつて長府寛苑寺境内を中心に和同開珎を鑄造していた造幣局があったという史実や、銭貨の鑄造技術や古代の貨幣流通の実態についても理解が深まりました。



## 私のゼミ

連載企画

## 金融機関行動についての実証的な分析方法

経済学科3年 佐々木 啓行  
(岡山県立玉島高等学校出身)

森祐ゼミは金融のゼミナールで、企業行動や金融機関行動についての理論的基礎を踏まえ、実証的な分析方法を学習し、金融経済の理論とともに実践的な知識の修得を目指しています。具体的には、金融分野を主な対象として、経済や金融機関・企業のデータ収集・集計、統計データの処理、様々な統計値による分析、発表用資料の作成方法を学習します。さらに、シミュレーション実習(東京証券取引所・日本証券業協会主催「株式学習ゲーム」)に参加し、株式投資を通じて企業行動・企業財務・企業金融、証券市場と経済の関係などについて学習していきます。



授業の流れとしては春に実践的な知識や分析方法を学び、秋から実際に投資ゲームを行います。具体的には、3人から4人のグループで、各自が設定した分析を進めていきます。数回の中間発表と議論を経て、最終的なグループワークの成果を発表します。

また森(祐)ゼミでは学生の意見が通りやすいです。私たちの学年では中小企業懸賞論文への取り組み、インターゼミ(鹿兒島)、夏合宿、さらにはクリスマスパーティーまで楽しい企画を実施しています。学生生活がさらに楽しくなること間違いのないと思ひます。

森(祐)ゼミでは遊ぶ時は遊ぶ、やる時はやるという風にメリハリをつけています。やる気のある学生はぜひ森(祐)ゼミで頑張りましょう!



## 下関市立大学 News & Topics

### 創立60周年記念植樹式を行いました

平成28年6月に創立60周年記念式典を開催し、第1期卒業生（一期会）から桜の寄贈を受けました。式典当日は初夏で植樹ができませんでしたが、植樹時期となりました2月10日に桜の植樹式をとり行いました。あいにくこの冬一番の寒気襲来という天気で、植樹式は本館I-206教室で開催され、式典終了後、桜の植樹、記念撮影を行いました。

一期会からいただきました陽光桜は「里桜」の天城吉野（アマギヨシノ）と寒緋桜（カンヒザクラ）との交配によって作出されたものだそうです。元教師だった桜の作者は、送り出した教え子たちが戦場に散ったことを悼む鎮魂の旅に出た沖縄で寒緋桜（カンヒザクラ）と出会い、この桜が生まれることにつながったということです。改良25年にして作出された陽光桜（ヨウコウザクラ）を、作者は「平和のシンボル」として各地にこの桜を贈り続けたそうです。



### 日本初?! 韓国の高校生と日本の高校生と 下関市立大学の学生が共に学ぶ!

11月2日（水）、釜山にある開成（ケソン）高校の訪問団が下関市立大学に來られました。韓国の高校生に日本語研修を行うのは本学にとって初めてのことです。開成高校は下関商業高校の姉妹校で、当日は開成高校と下関商業高校の生徒とともに下関商業高校出身の本学学生が学習活動を行いました。韓国の高校生と日本の高校生と日本の大学生による日本語の学習は、日本初のようなです。開成高校の生徒からだけでなく、下関商業高校の生徒、本学の学生からも「楽しかった」、「貴重な経験になった」との感想をいただきました。今後、海外の高校生の本学への訪問が増えることを期待しています。



### 教育旅行研究大会を終えて

経済学科2年 吉長 美紗  
(広島文教女子大学附属高等学校出身)

私たち2年生の学生有志は「海洋観光学・瀬戸内キャンパス 教育旅行研究大会」に参加し、審査員特別賞をいただきました。本大会は、瀬戸内を舞台とし、「教育」をテーマに旅のプランを企画するものです。

私たちが旅行の対象とした地域は、山口県周南市大津島です。この島には人間魚雷「回天」の基地跡があります。実際に大津島を訪れ、調査を行いました。島の人たちの温かさにも触れ、また訪れたいと感じる魅力で溢れた島でした。

プラン作成の際は、楽しい旅行の中でいかに教育効果を出すか、島への波及効果はあるか等、様々な視点から考えることの大切さを感じました。今回の経験を今後の研究活動等に生かしていきたいと思ひます。



### 学生大会(Link Topos)に参加して学んだこと

学生広報委員 公共マネジメント学科2年 武田 航大  
(愛媛県立西条高等学校出身)

私は10月8日から2泊3日の間、北九州市で行われた全国公立大学学生大会に参加しました。初参加でしたが、他大学の方々との活動を通じて有意義な時間を過ごすことができました。活動内容は初日に自身の所属する団体の紹介、2・3日目に或るテーマについてグループで議論、発表するというものでした。初日には自身の広報活動について様々な方に聞いてもらい、感想やアドバイスをいただきました。そして2・3日目ではテーマについて考える中、グループ内でどのように振舞えば議論が深まるか、わかりやすい発表をするにはどうすればよいのかを知ることができました。

2泊3日という短い期間でしたが、非常に良い刺激になりました。これからの広報活動に活かしていきたいです。



### 自著を語る

連載企画

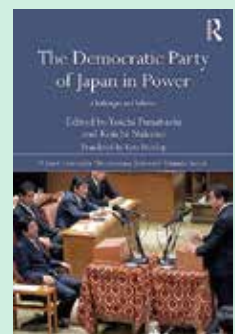
#### The Democratic Party of Japan in Power : Challenges and Failures

教授 萩原 久美子

自民党が圧倒多数を占める国会において、野党第一党というには民進党の存在感はあまりに小さい。前身である民主党政権時代も遠い過去となり、2016年には「民主党」としての歴史にも終止符が打たれた。

ところが、実にそのタイミングで、執筆陣の一人として参加した『民主党政権 失敗の検証』（中公新書、2013年）が英訳され、2016年秋、Routledge社から出版された。一党優位と官僚制主導を前提とした政治システムに対する「オルタナティブ」はいかに成立しうるのか。その本書の問いは皮肉なことに今、世界的な課題である既存政治に対する「オルタナティブ」への問題意識と重なったのである。

民間シンクタンク日本再建イニシアティブのもと政治学者、経済学者、社会学者ら8人の調査チームでマニフェスト政治、政治主導の迷走、財政再建の不発、党内ガバナンスなどの内実を探るべく民主党議員を中心に約30人のインタビューを重ねた。私が担当したのは子ども手当である。労働社会学、社会政策の観点から政策過程にアプローチし、日本型福祉国家の方向転換の難しさと背後にある官僚主導の政策が持つ粘性に目を向けた。民主主義的制度のうちにある非民主主義を目の当たりにする今、改めて手に取っていただければ光栄である。



## ■平成28年度 秋季大会等成績

サークル名	イベント名	所属・出場種目	結果	個人名	
陸上競技部	山口県体育大会	男子走高跳	1位	篠本 丞晟	
少林寺拳法部	平成28年度 山口県体育大会 少林寺拳法競技	単独演武 一般女子級拳士の部	1位	田中 眞奈美	
		単独演武 一般男子級拳士の部	1位	岡本 卓巳	
		組演武 一般女子有段の部	1位	日隈 香菜絵・金子 紗友美	
		組演武 一般男子二段以上の部	1位	川原 功介・青井 大幸	
		団体演武の部	1位	山口 太一朗 他5名	
		第51回記念少林寺拳法全日本学生大会	立合い評価法の部	6位入賞	麻生 紗希
		第6回少林寺拳法中四国学生新人大会	組演武 男子白緑の部	1位	奥田 将生・松本 竜馬
			組演武 男女白緑の部	3位	田村 友里・山元 克也
			組演武 男子初段の部	1位	山口 太一朗・岡本 卓巳
			組演武 女子初段の部	1位	日隈 香菜絵・田中 眞奈美
	組演武 女子初段の部		3位	疋田 梨緒・森脇 千夏	
	組演武 男子二段以上の部		3位	河内 良太・青井 大幸	
	2016年少林寺拳法全国大会inおおい	立合い評価法の部	3位	河内 良太	
		団体演武の部	3位	山口 太一朗 他5名	
		単独演武 一般女子級拳士の部	予選敗退	田中 眞奈美	
		単独演武 一般男子級拳士の部	予選敗退	岡本 卓巳	
		単独演武 一般男子有段者の部	予選敗退	河内 良太	
		組演武 一般男子級拳士の部	予選敗退	大塚 拓弥・井倉 麟太郎	
		組演武 一般女子有段者の部	予選敗退	森脇 千夏・麻生 紗希	
		組演武 一般男子有段者の部	予選敗退	山口 太一朗・大鶴 貴樹	
組演武 一般男子二段以上の部		予選敗退	伊藤 大介・川原 功介		
卓球部		第67回中国学生卓球選手権秋季大会	男子団体2部1位(2部残留) 女子団体2部2位(2部残留)		
軟式野球部	平成28年度西日本地区学生軟式野球秋季1部リーグ戦	準優勝(西日本大会出場権獲得)			
		優秀選手賞	田島 潤		
		ベストナイン二塁手部門	呉田 龍一朗		
	第33回西日本学生軟式野球選抜大会	選抜大会出場			
準硬式野球部	中国地区準硬式野球秋季大会	2部準優勝(1部昇格)			
空手部	第63回北九州・下関地区大学体育大会	男子団体組手	優勝		
		男子形	優勝	村瀬 智大	

## ■学生団体新役員紹介

### 第13代学友会執行部



学友会会長

- ◎会長 湯地 麻里子(経済学科3年)
- ◎副会長 中道 実希(国際商学科2年)
- ◎会計局長 上村 怜平(経済学科2年)

### 第42代体育会



体育会会長

- ◎会長 矢嶋 取(経済学科3年)
- ◎副会長 兼 書記長 石山 克樹(経済学科3年)
- ◎総務局長 久木留 雅人(経済学科2年)

### 第33代文化会



文化会会長

- ◎会長 徳長 亮文(国際商学科2年)
- ◎副会長 岩田 桃太郎(経済学科2年)
- ◎書記 木本 文哉(経済学科3年)

### 第56回大学祭実行委員会



大学祭実行委員会委員長

- ◎委員長 橋本 春道(経済学科2年)
- ◎副委員長 川端 さくら(国際商学科2年)
- ◎企画開発局長 山崎 南七星(経済学科2年)

## ■平成28年11月～平成29年2月の行事

平成28年	11月17日	インターンシップ報告会
	19日	推薦・特別選抜(帰国子女等・社会人・編入学)
	22日	学内合同業界研究会(～24日)
	26日	市民大学テーマ講座
	12月 1日	第1回交通安全講習会
		下関市立大学弁論大会 中国語スピーチコンテスト
	3日	5大学連携「赤間関」公開講座
	8日	共同自主研究発表会
	14日	下関市立大学弁論大会 コリアンススピーチコンテスト
	15日	第1回リーダーシップトレーニング
17日	外国人留学生選抜	
27日	冬季休業(～1月4日)	
29日	学内一斉休業(～1月3日)	
平成29年	1月 5日	授業再開
	7日	食見交歓～餃子パーティー～
	14日	大学入試センター試験(～15日)
	17日	第2回交通安全講習会
	20日	留学生送別会
	25日	卒業論文提出日(～26日)
	27日	秋学期定期試験(～2月2日)
	31日	修士論文提出日
	2月 4日	就活直前セミナー
		市大キャリアスタディ
	7日	第2回リーダーシップトレーニング
	25日	一般選抜(前期日程)

## ■2017年度入試結果

本学において、11月19日(土)に2017年度推薦入学、特別選抜(帰国子女・社会人)、第3年次編入学の試験を、12月17日(土)に外国人留学生選抜の試験をそれぞれ実施しました。

	入試区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
経済学科	推薦入学	全国	27	87	87	31	2.8
		地域	A B	29	39	39	30
	帰国子女	2	0	-	-	-	-
	社会人	2	0	-	-	-	-
	留学生	若干名	5	5	3	1.7	
	編入学	8	20	19	9	2.1	
国際商学科	推薦入学	全国	27	74	74	27	2.7
		地域	A B	29	34	34	31
	帰国子女	2	0	-	-	-	-
	社会人	2	0	-	-	-	-
	留学生	若干名	19	18	10	1.8	
	編入学	8	19	16	9	1.8	
公共マネジメント学科	推薦入学	全国	7	17	17	7	2.4
		地域	A B	8	13	13	8
	帰国子女	1	0	-	-	-	-
	社会人	1	0	-	-	-	-
	留学生	若干名	4	4	2	2.0	
	編入学	4	17	12	5	2.4	

※推薦入学の合格者数には第2志望学科合格者を含みます。